

西山宗因全集

全六巻

【完結！】

最終配本2017年4月

第六巻 解題・索引篇 刊行！

新資料博搜精査による成果を満載した「補訂」、
本全集収録資料全底本二四八点の「資料解題」、
約四九、六〇〇句を網羅した「初句索引」を収録

連歌から俳諧へ、
西鶴・芭蕉に多大な影響を与えた
革新的詩人の全文業を集大成
連歌師として諸国に名声を轟かせ
軽妙洒脱な俳風で近世庶民に俳諧を開放した
宗因の全貌を明らかにする画期的全集！

【監修】
尾形 仍・島津 忠夫
【編集委員】
石川 真弘・井上 敏幸
牛見 正和・奥野 純一
尾崎 千佳・加藤 定彦
塩崎 俊彦・島津 忠夫
宮脇 真彦・米谷 巖



八木書店

第1巻 連歌篇

※上製版品切れ：オンデマンド版

並製・カバー装／506頁／定価（本体18,000円＋税）
ISBN 978-4-8406-3636-0（第2回配本：2004年9月）

発句・付句・万句・千句の4部により構成。発句部には、『西山三籟集』と『宗因発句帳』の2本を、付句部として、太宰府天満宮西高辻家蔵『連歌附句集』のうち「宗因付句」を収録する。万句部には、大阪天満宮御文庫蔵『万句発句帳』を、大方家蔵『天満宮万句第三付』と対校して取めた。千句部には、『正方・宗因両吟千句』『十花千句』『桜御所千句』『風庵懐旧千句』『権現千句』『伏見千句』『豊前小倉千句』『浜宮千句』『氏富家千句』の9編について、宗因自筆本、もしくはそれに準ずる最善本を底本として翻刻し、年代順に配列した。ほとんどの作品が従来未翻刻であり、第2巻と併せ、宗因連歌の全貌が初めて明らかにされる。

第2巻 連歌篇 二

上製・貼函入／450頁／定価（本体18,000円＋税）
ISBN 978-4-8406-9662-3（第4回配本：2007年8月）

宗因18歳の元和8年2月29日興行「山何百韻」から、没前年の延宝9年6月14日興行「賦山何百韻」まで、宗因出座の百韻・七十二・五十韻・歌仙・三物、130編を編年収録。神宮文庫・福岡市博物館館島鍋島家資料・九州文化史研究所三奈木黒田家資料・関西大学鬼洞文庫などのうちに所蔵が確認された新出作品を豊富に含み、既知の作品についても、広く諸本を精査し、善本を求めて翻刻した。各作品末尾に、対校本との校異を示す。宗因連歌の変遷が展望できるとともに、その多彩な人的交流の様相が垣間見られる。

第3巻 俳諧篇

上製・貼函入／546頁／定価（本体18,000円＋税）
ISBN 4-8406-9663-2（第1回配本：2004年7月）

発句・連句・付句の3部により構成。発句部には、新出真蹟句を含む743句を収録した。宗因49歳の承応2年から78歳の天和2年にかかる587句を年次順に配列、出典を脚注、異同を頭注に列記する。連句部には、承応3年10月3日興行「宿からは」百韻から、延宝9年秋の「おもひ入」歌仙まで、宗因出座の万句・千句・十歌仙・百韻・歌仙・三物、100作品を収める。各作品ごとに詳細な校異欄を設けて信頼できる本文を提供するとともに、既に翻刻・影印の備わる宗因俳書等に所収の連句も、及ぶ限り成立年次を推定して、年代順に配列した。付句部には、明暦2年刊『ゆめみ草』以下の俳書21編より、宗因付句を抜粋して収録する。

第4巻 紀行・評点・書簡篇

上製・貼函入／378頁／定価（本体18,000円＋税）
ISBN 4-8406-9664-0（第3回配本：2006年8月）

紀行部には、『肥後道記』『津山紀行（3種）』『奥州紀行（5種）』『筑紫太宰府記』『明石山庄記（2種）』『高野山詣記』『西翁道之記』『奥州一見道中』『伊勢道中句懐紙』、以上16編の紀行文・句日記に、『有芳庵記（3種）』他の句文・歌文を収録。宗因紀行文は、同一作品に複数の自筆浄書本の備わる点に最大の特色があり、その存在の意味を問うことは、広く連歌師の文章制作と享受の実相を解明するための課題でもある。本巻では、諸本関係や各本の固有性が如実に対照できるよう、自筆本のすべてを収集、翻刻した。評点部には、新出資料3点を含む連歌評点巻15編・俳諧評点巻31編・狂歌点巻1編を収める。生涯一編の論書も残していない宗因の連歌の説・俳諧観が、ここにきわめて具体的にうかがえる。書簡部には、25通の宗因書簡を収録。和歌・漢詩・狂歌若干を併載。

第5巻 伝記・研究篇

上製・貼函入／448頁・口絵8頁／定価（本体18,000円＋税）
ISBN 978-4-8406-9665-4（第5回配本：2013年4月）

参考資料・研究・年譜の3部により構成。参考資料として、肖像・文台・過去帳・什物目録等の西山家関係資料、『土橋宗静日記』『大坂城代青山宗俊右筆日記』『氏富卿日記』『家塵』等の記録、『法雲禪師寿山外集』等の伝記資料、追善集、句碑、俳諧系譜を抜粋して収め、編纂句集『梅翁宗因むかし口』の全文を翻刻した。さらに、宗因をとりまく俳壇の様相をうかがうべく『蚊柱百句』論難書2書の全文を翻刻し、宗因伝の補完となるべき記事を同時代俳書から拾い、宗因没後の関係資料を雑抄として併載した。宗因俳書・宗因伝書は研究史の到達点を概説する。年譜は、本全集の成果を踏まえて詳細厳密を期す。宗因伝記研究の決定版を目指した。

第6巻 解題・索引篇

※最終配本・完結！

上製・貼函入／520頁・口絵4頁／定価（本体18,000円＋税）
ISBN 978-4-8406-9666-1（第6回配本：2017年4月）

- 全6巻セット A5判／平均476頁／上製・貼函入／定価（本体108,000円＋税）
 - ・第1巻は上製版品切れにつきオンデマンド版（並製・カバー装）となります。
 - ・在庫僅少巻は上製版品切れ後、順次オンデマンド版（定価は同様）となります。
- 各巻分売 全巻完結に伴い、各巻分売いたします。

【図録】宗因から芭蕉へ

（2005年10月刊）

西山宗因生誕四百年記念

柿衛文庫・八代市立博物館未来の森ミュージアム・日本書道美術館編

A4判・並製・80頁・定価（本体2,000円＋税） ISBN 4-8406-9667-5

宗因生誕400年（平成17年）を記念して開催された同名巡回展の展示図録として編集。この一冊で最新の調査成果を踏まえた宗因の全文業を概観でき、さらに宗因から多大な影響を受けた芭蕉の名品を併載。宗因・芭蕉の時代の文学の豊かさを精緻美麗な図版で楽しめる。収録資料110点（新出資料12点・初公開資料22点）。



八木書店

●TEL 03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ●FAX 03-3291-6300
●E-mail pub@books-yagi.co.jp ●Web https://catalogue.books-yagi.co.jp/
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 (20170413)

【補訂】 既刊巻未収録の宗因作品と参考資料を、連歌、和歌、文章、小発句集、評点、書簡、加藤正方関係資料、追善、同時代俳書抜抄・雑抄、俳諧、現存真蹟一覧に分けて収録。早稲田大学図書館雲英文庫『明石浦人丸社千句』・榊原家史料『浄見院様御詠草』・天理図書館綿屋文庫『向榮庵記』・宗因真蹟書簡5点・八代市立博物館広島加藤家資料、野間光辰氏旧蔵資料（書簡1点、歳旦懐紙2点、評点奥書1点、加藤正方関係資料2点、短冊8点）等、近時新たに発見された重要資料を豊富に収める。現存真蹟一覧には、長年に及ぶ博捜を経て宗因真蹟と認定した連歌俳諧の短冊・色紙・懐紙等を一覧した。

【資料解題】 本全集に翻刻収録した作品・資料の全底本248点の解題について、書名の50音順に配列して収録。【初句索引】 本全集に収録した、すべての連歌・俳諧・聯句・和歌・狂歌・漢詩の初句による、本編活用に必備の索引。約49,600句の初句を網羅し、検索の便に資した。

【初句索引】 組見本
初句索引 や
②263, ⑥61 山里からの ②174 むべも住よ ①133
前田さびし ①243 山ざとに 山寒き
やどりなが ⑥45 うらめづら ④21 住家にたれ

【資料解題】 組見本

資料解題

明石浦人丸社千句
因・信之ほか著。〔江戸前期〕写。綴葉装。料紙、楮紙打紙。紺地に金砂子・金箔で雲霞、金泥で草花を描いた装飾表紙。表紙中央題簽「明石千句連歌」は宗因筆。早稲田大学図書館雲英文庫蔵。永田文庫・紫水文庫・中村俊定文庫旧蔵。寛文十二年正月十七日―二十一日興行。明石藩主松平信之の当厄祈禱として興行された、明石浦人丸社法楽の連歌千句（⑥補訂連歌1）。

【補訂】 組見本

連歌1 明石千句

74 舟はいづくになれる浦山 信
73 見をくりし思ひは深き我涙 連句
72 分 帰 り ぬ る 通 路 の 末 蚊也
71 月の色もさびび行今朝のま萩原 宗因
70 遠里小野にをける露霜 頼香
69 方々に衣うちぬる音はして 信
68 よるく涼し草の屋の秋 政眞
67 いな妻の照すと見えし麓田に 政眞
66 山飛末のはやきしら雲 宗因
65 松浦濁波より浪の明はなれ 蚊也
64 かずく出て行くし舟 連句
63 直き世は東風吹空もをだやかに 頼香
62 時をたがへぬ民の苗代 信
61 かつくも垣ねの草の春めきて 宗因
60 里近くしも駒いばふ声 清光
59 柴人やかへさの道をいそぐらし 政眞
58 高根は過る夕立の雲 政眞
57 漲りて月をもながす滝の水 連句

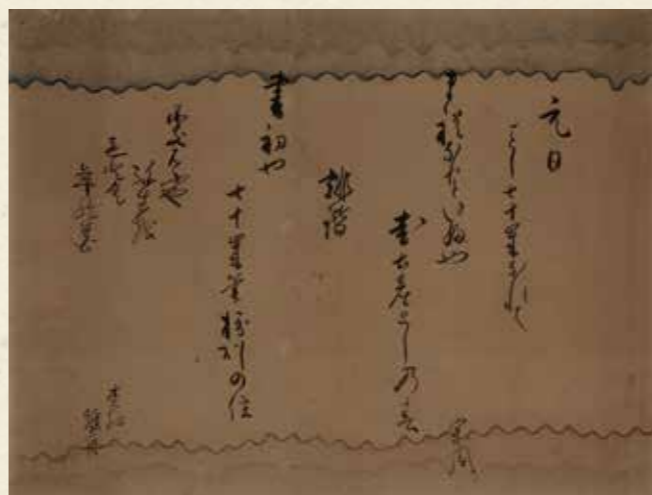
①438 山田のくろを
⑥116 山田の早苗
①274 山田の原の
①338 風ぞ身にし
①338 ふかき杉村
①299 山田の原は
②73 山田のひたを
③503 山田守
①237 山田をかけて
②249 山ちかき
②249 山近き
④107 山近み
②278 山産の
③525 山寺と
③227 山寺の
④148 情こは雪も
④222 ちご桜みて
⑥8 山寺までも
②223 大和歌
③8 和歌に
①382 大和宇多は
①388 山遠く
①34, 147 雨の名残や
②383 傾く光
③341 山遠し
④230 あやしや滝
③165 山遠み
①380 大和路さして
①9 大和島ねを
④199 やまとなる
①194 大和には
①176 あらぬ歌を
①176 むら山なす
①176 山飛雲に
①176 山飛末の
①176 山と見て
①176 宿とふ霧の
①176 山鳥の
①176 山ながく
①176 山長くして
①176 山中に
①176 山ながら
①176 山なしの
①176 山なしよ
①176 山ならぬ
①176 山ざとやこ
①176 山ざとや此
①176 山里やこの

尾形 仿 「近世文学のさきがけ」より

宗因はその俳風の心酔者たちの中から元禄文学の二大巨星芭蕉・西鶴を出し、後者の場合は草子文体の創出にまで影響を及ぼした。中世詩とされる連歌を本領とし連歌師として終始した宗因が、近世庶民詩としての俳諧の流れに一大転回をもたらす。そのことは文学史の上での大きな逆説といつていい。その逆説を可能にしたものは、何なのか。宗因の生涯を見渡すと、六十代の前半までは公私ともに不幸の連続だったともいえる。その宗因がなぜ連・俳を通じ軽妙な口質による「夢幻」の世界に逍遊し得たのか。そこには文学と人生にかかわる大きな問題が潜んでいる。それらの謎を解くためには、その作品と伝記についてのすべての情報が網羅・集成される必要があるだろう。

島津忠夫 「刊行にあたって」より

大阪天満宮連歌宗匠であった宗因の連歌は、うちにあふれる詩精神によって伝統的枠組みのなかに清新な感覚をたたえており、談林派俳諧の総帥とされた俳諧は、古典の教養と当代感覚をもって和歌や謡曲のもじりを自在に試み、洗練された表現には滋味あふれるものがある。連歌の伝統の上に立つ紀行も独特の気品と文芸性を持ち、俳諧史上、宗因を知らずして西鶴や芭蕉を語ることはできない。ところが、作品の全貌が知られなかったために、実際の作品を読み通すことは困難であった。ここに宗因生誕四百年を迎え、ようやく期が熟し、連歌・俳諧・紀行など全作品を網羅集成し、年譜・参考資料・資料解題・索引を添えて、鋭意刊行するに至ったのである。



新出資料：「神風や」発句懐紙（個人蔵）

新出資料：延宝二年歳旦発句懐紙（個人蔵）

● 西山宗因略伝

慶長十年（一六〇五）、加藤清正家臣、西山次郎左衛門の子として肥後熊本に生まれる。十五歳ごろより八代城代加藤正方の側近に奉仕して文事に親しみ、十八歳の元和八年（一六二二）、上洛して里村昌琢に師事し、連歌の修行を積んだ。寛永十年（一六三三）十月、加藤家退転により故国を逐われた主君正方に付き従って浪人の身となるが、正保四年（一六四七）、四十三歳にして大坂天満宮の連歌所宗匠に就任、天満宮月次連歌の再興、近郷連歌の指導など、目覚ましい活躍を始める。寛文期（一六六一）以降、名声の高まりにつれて貴顕や諸侯に招聘を受けるようになり、伊勢・奥州・九州・江戸・明石と、全国各地を精力的に行脚して連歌興行に励み、折々の見聞を紀行文に認めた。いっぽう、大坂移住を契機として俳諧にも興味を持ち出し、その周辺に、のちに談林と呼ばれる新風俳諧の集団を形成させていく。特に延宝期（一六七三）に至ると、宗因の名を冠した俳書が相次いで刊行され、旧派貞門俳人からは異風異端と批判されながらも、宗因風俳諧は全国規模で盛行した。天和二年（一六八二）三月二十八日没、享年七十八。その末裔は文政期まで大坂天満宮連歌所の宗匠職を世襲した。俳諧の門人に井原西鶴らの革新的作家があり、若き日の芭蕉にも多大な影響を与えた。